

JRAT 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会

医師 角田 賢 様

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年10月21日に発生した鳥取県中部地震からの復旧・復興に向けまして、心温まるご厚情を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

今回の地震は、鳥取県中部を震源とするマグニチュード6.6の規模で、倉吉市では最大震度6弱の揺れを観測するなど、甚大な被害が生じてもおかしくなかったのですが、広く国内外からたくさんのご支援をいただき、また、鳥取県が誇る人と人との「絆」も発揮された結果、1人の死者もなく、今日まで着実な復旧・復興を進めることができいております。

しかしながら、被災した家屋については、33年ぶりの大雪など天候の悪影響もあって修繕が完了せずブルーシートで覆われた屋根がまだ多く残っています。

また、地震に伴う風評による観光客の落ち込みを払拭し、観光地などにおける一層の賑わいの創出にも引き続き取り組む必要があるなど、復興への道のりはいまだ半ばとなっております。

新しい年度を迎え、県では、今回の地震を教訓にして、より災害に強く元気な地域づくりを進めるため、マイナスからゼロへ戻すだけでなくむしろプラスへと転じるよう、官民が連携して一層強力に取り組んでいきます。

鳥取県が「復興」から「福興」へと遂げていく姿を今後とも温かく見守っていただきますようお願い申し上げます、略儀ながら書中をもってお礼申し上げます。

敬具

平成29年4月

鳥取県知事

平井伸治